

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	23-325	慶應義塾大学 加藤眞三
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Extracellular Vesicles as Therapeutic and Diagnostic Tools for Chronic Liver Diseases. 慢性肝疾患の治療および診断ツールとしての細胞外小胞		
<b>執筆者</b>		
Leszczynska A(1), Stoess C(1)(2), Sung H(1), Povero D(3), Eguchi A(4), Feldstein A(1).		
<b>掲載誌</b>		
Biomedicines. 2023 Oct 17;11(10):2808. doi: 10.3390/biomedicines11102808.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
細胞外小胞、 慢性肝疾患、 ストレス		37893181
<b>要旨</b>		
<p>慢性肝疾患は線維症の変化につながり、肝硬変へと進行する可能性がある。肝硬変は、罹患率と死亡率の増加という重大なリスクをもたらす。代謝機能障害性脂肪性肝疾患 (MASLD)、アルコール性肝疾患 (ALD)、ウイルス性肝炎は、肝硬変につながる可能性のある一般的な肝疾患である。肝硬変の進行した段階では、癌の発生や末期肝疾患、肝不全を併 従来、肝線維症の診断と病期分類には侵襲的な肝生検がゴールドスタンダードとされてきた。</p> <p>ここ 10 年ほどは、血液などの体液中の疾患特異的バイオマーカーを特定する非侵襲的な EV (細胞外小胞) はストレスや損傷を受けた細胞から放出され、分離および定量が可能である。さらに、EV は様々な物質を輸送することで細胞間コミュニケーションを促進し、線維形成促進因子の発現を減少させる可能性を示しており、新たな抗線維症治療のための魅力的なツールとなる可能性がある。本レビューでは、慢性肝疾患における EV の影響に焦点を当て、革新的な治療および診断アプローチにおけるその潜在的な応用を探求する。</p>		